

モデル事業名	拓魂の里 姥屋敷 地域の担い手発掘支援モデル事業
活動団体名	特定非営利活動法人 いわて NPO センター
ホームページ	<a href="http://www.vill.takizawa.iwate.jp/ubayasikitiiki">http://www.vill.takizawa.iwate.jp/ubayasikitiiki</a> (姥屋敷いきいき 21 推進委員会) <a href="http://www.vill.takizawa.iwate.jp/">http://www.vill.takizawa.iwate.jp/</a> (滝沢村) <a href="http://www.iwate-npo.org/center/">http://www.iwate-npo.org/center/</a> (特定非営利活動法人 いわて NPO センター)
所属/ 担当者名	特定非営利活動法人 いわて NPO センター 事業開発チーム/竹花 清 (岩手県盛岡市大通三丁目 10-40)
連絡先	TEL 019-606-1100、FAX 019-606-1101、E-mail kikaku@iwate-npo.org
活動地域	岩手県滝沢村姥屋敷

### ● 活動地域の概要

姥屋敷 (うばやしき)

人口 : 350 人、世帯数 : 106 世帯、高齢化率 : 48%、公共交通 : 無し、産業 : 主に酪農・畑作農家、自治会数 : 1、住民団体 : 「姥屋敷いきいき 21 推進委員会」

姥屋敷地域は満州から引き揚げた開拓民が、昭和 22 年から開墾した酪農・畑作を主産業とする地域である。これまで地域住民による任意団体「姥屋敷いきいき 21 推進委員会」が行政と協働で平成 17 年～18 年に生活道路の幅員を倍に拡幅する工事 (建設業者なら 9 千万円のところを住民の力で 3 千万円で施工) を実施した。また平成 20 年には防火用水を整備する工事も実施。また、平成 15 年からは新しい特産物のヤマブドウの作付けや食品加工場をつくり商品開発をしている。



【滝沢村位置図】



【姥屋敷位置図】



【住民により改修された道路】



【食品加工場】

### ● 活動地域の課題

「姥屋敷いきいき 21 推進委員会」や自治会が中核となり、地域の様々な課題解決に精力的に取り組んでいる姥屋敷地域であるが、地域住民の高齢化と人口減少により限界集落に近づきつつあり、今後も同様の地域の取組を継続することには困難が予想される。

### ● 活動の内容

#### ・平成 21 年度

姥屋敷地域のコミュニティを持続可能な形にするには、地域を担う後継者の確保が急務であり、そのためにはまず対象地域において交流人口を増加させることが先決である。このため、地域住民で将来ビジョンを描いてこれを共有し、姥屋敷の地域資源を活用した地域ツーリズムや 6 次産業化への転換を視野に入れて方策を検討、実践するものである。

平成 21 年度の目標「地域の想いを共有し、地域の将来ビジョンを策定する」

姥屋敷地域将来ビジョン検討会 : 5 回 → 目標 : 「拓魂の里 姥屋敷 基本構想」1 式策定

姥屋敷宝探しワークショップ : 5 回 → 目標 : 姥屋敷お宝マップ 1 式作成 (「基本構想」にフィードバック)

## ● 活動の成果

### ・平成21年度

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

- 平成21年 9月10日 検討会1 (姥屋敷いきいき21推進委員会・自治会での事業説明・共有)  
平成21年10月14日 検討会2 (姥屋敷いきいき21推進委員会と意見交換・ニーズヒアリング)  
平成21年11月30日 検討会3 (姥屋敷青年会と意見交換・ニーズヒアリングワークショップ)  
平成22年 1月31日 姥屋敷の未来を考える勉強会1 (勉強会ワークショップ・検討会)  
平成22年 2月11日 姥屋敷の未来を考える勉強会2 (勉強会ワークショップ・検討会)：予定  
平成22年 2月中旬 ワークショップ・検討会：予定  
平成22年 2月下旬 ワークショップ・検討会：予定

平成21年は活動の中核を担う団体や個人有志等、地域住民と事業の展開方法について合意形成・共有するための検討会を開催した。平成22年度には広く一般住民の参加を募り、姥屋敷の未来を考える勉強会を実施する。



【検討会1開催状況】



【検討会3開催状況】



【検討会3のワークショップ成果】

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

最初に事業の合意形成を図った姥屋敷いきいき21推進委員会以外にも、実際はその構成団体である自治会や青年会のほか、地域の将来に夢のある計画を持つ有志など、多様な世代や団体・個人が居り、それぞれは連携できていないことが判明した。

これらの団体・個人は、それぞれ地域への思いや課題・ニーズ、将来構想などが違い、その内容についてもお互いが共有する機会がなかった。そこで、本事業を契機にそれぞれ地域への思いや課題・ニーズ、将来構想をお互いが共有し、ひとつの地域ビジョンにまとめ上げながら、協力して取り組むことができる事業を策定することが必要となった。

### ・展望

今後は地域資源を活用した事業を展開する。例えば次年度以降は、地域資源を体験できる「姥屋敷ウォーキング」によって姥屋敷地域の魅力を広く周辺地域に紹介し、併せて「姥屋敷ウォーキング」の参加者の中から姥屋敷の地域ツーリズムやコミュニティビジネスに参画し、地域の担い手として定住を希望する人材を発掘することも目指す。「姥屋敷ウォーキング」は姥屋敷の魅力を伝える地域ツーリズムのメインメニューであるが、これはガイドや物販等で収益事業化も可能である。地域の担い手の獲得・育成は勿論、この事業収益を原資に地域住民による生活環境の改善と公共財の管理にも持続的に取り組めることが可能となる。

即ちこれは、本事業終了以降も地域ツーリズム・コミュニティビジネスの展開によって姥屋敷の魅力を広く発信し、交流人口を増加させ、リピーターの中から地域を担う後継者として定住を希望する人材を発掘すると共に、事業収益を原資に地域住民による生活環境の改善と公共財の管理にも持続的に取り組める持続可能な仕組みを構築することを目指すものである。また、過疎化の問題を抱える地域においては、これら一連のフロー（地域資産の発掘から事業化、これにより交流人口の増加が生まれ地域の担い手となる人材を発掘）は、全国各地の過疎の地域で通用するモデル的な手法と考えられる。